

砺波・散居村シンポ

景観生かし活性化を

「散居村の保全と活用シンポジウム」の第2回目が25日、砺波市文化会館で開かれ、「散居村を生かした経済の活性化」をテーマに意見交換した。パネルディスカッションで石崎元威、鷹栖建工社長(砺波市)

と北村真樹、日ビル商事社長(金沢市)、森田由樹子、エコロの森社長(富山市)、横山宣教・兵庫丹波の森協会専門研究員(兵庫県)がパネリスト、余西孝之、砺波商工会議所総務委員長がコーディネーターを務めた。「若



散居村を生かした活性化について意見交換したシンポジウム。左から余西さん、石崎さん、森田さん、横山さん、北村さん

い世代のライフスタイルに合わせた住宅が散居村での同居を進め、景観とコミュニティを守ることになる。「集落営農と散居村の管理を関連付けるような取り組みはできないか」などの提言があった。

兵庫県篠山市で空き家活用などに取り組む「福住まちづくり協議会」の麻田馨前会長が「地域資源を生かしたまちづくり」と題して講演した。

シンポジウムは市と住民でつくる実行委員会(尾田武雄代表)が3回シリーズで企画。第3回は「散居村の保全と地域の発展」をテーマに来年1月27日午後1時半から同会館で開催する。